

Nさんの手術とEBM

日本医科大学 第1外科 徳永 昭



2001年 International Surgical Week (Brusselsにて)

日頃、胃癌の手術に携わる機会が多い。手術後、すべての患者さんが経過良好ではない。

Nさんもその一人である。今から8年前に、早期胃癌で幽門側胃切除・B-II再建を受けた。しばらく調子よかったが、3年前より胸焼け、疼痛などの逆流症状がでて、外来を受診した。当初は薬物療法で対処できたが、だんだんに症状が強くなった。内視鏡検査では食道炎は軽微であったが、胆汁逆流による残胃炎が著明であった。同時に施行したBilitec2000による検査では、胃内に高度な胆汁逆流が観察された。しばらく外来で薬物治療を続けたが、一進一退であった。

一昨年のある日、外科治療(再手術)を視野において説得を試みたところ、その後、半年にわたり通院しなかった。その間、他医に通院していたらしい。Nさんは愛飲家で、術後も毎日のようにビールを4、5本飲んでいて、再手術を決心する3カ月前頃には、痛みのためにそれが飲めなくなって悩んでいると家人から聞いた。今年になり、内視鏡検査とBilitec2000を再度受けてもらった。以前より残胃の発赤・浮腫が強くなり、胆汁逆流も高度であった。家人も交え説明し、Nさんは再手術を受け入れる意向を示した。

グループ・カンファランスでは、Nさんの生活習慣を正すべきとの意見(節酒等)がでた。さらに、術式の選択についても議論された。今回の病態は残胃が主体で、逆流性食道炎については軽微と判断し、残胃切除・食道空腸吻合(Roux-Y)が適切である旨、説明した。Nさんおよび家人は納得した。

得した。

今年2月、手術をした。再開腹では、癒着が比較的軽微で手術はスムーズに運び、予定通りの術式で終わった。術後経過は順調で、術後2週間目に退院した。退院後の内視鏡検査およびBilitec2000では、食道内胆汁逆流はまったくみられなかった。もちろん、Nさんは退院後、家で好きなビールを飲んでいる。

ところで、Nさんの手術を例として疑問を定式化するといくつか上がってくる。①患者さんに対して、胃切除後逆流性胃・食道炎に対する病状の説明は十分か、②行おうとしている治療法(手術術式の選択・成績)について説明したか、③その治療法の危険性(術後合併症の内訳・頻度)について説明したか、④他の治療法の選択肢について説明したか、⑤術後の長期成績はどうか、などに答える十分なデータがあるか。さらに、この手術を執刀するにあたり、「自分が、これまで術者としての経験は十分あり、患者さんの満足度に加え客観的データ(治療成績)を持っているか」が最も重要な点と考えた。

今は、コンピューターの画面で最新の文献がたちどころに検索できる。その上インターネットを活用すれば、わざわざ図書館に足を運ばなくても、自分の机の上でも検索が可能な時代である(小原; 日臨外誌 2002, 63, 1063)。したがって、迅速正確なMedline、PubMedや医学中央雑誌のインターネットで情報検索できる(安部; 医事新報 2002, 4068, 79)。

一方、再手術に関して文献検索すると、思いのほかに少ないことに気づく。そのうちで、再手術外科の概念を示している書籍（再手術外科；加賀美，森岡 訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル，1992）の一節を引用する。「再手術にあたり、一人の外科医が全ての診断処置、相談、治療を調整しなければならない。再手術が必要な患者の術前、術中、術後のケアのどの部分にも、責任を分割するところはない。」ここでは、責任をシェアするなどありえない。外科医の役割の重さを改めて知らされる。

Nさんの手術を通じて、これまでの個人的経験や知識に基づいて選ばれたか、または推奨された処置を、十分に患者さんに説明し、それを適切に行うことの重要性をあらためて痛感した。

一方で、ふと、再手術における「根拠ある医療

(EBM)」とは何かと頭をよぎる。患者さん・家人に対する説明と同意があれば、それが手術に対する金科玉条かとも迷ってしまう。

データを根拠にした医療が確実であることは、論をまたない。データの集積には手間がかかることも事実である。しかし、癌治療に携わる消化器外科医にとってEBMと無縁の訳はない。患者さんに説明を繰り返し、同意を得て、その結果、一人ひとりのデータを積み上げていく地味な作業が、データベース作りに必要であると思っている。

〔文献〕

- 1) 総合臨床 2001, 50, 2123
- 2) 手術 2001, 55, 1127
- 3) 日本臨床 2000, 58, 1897
- 4) 治療 2000, 82, 1211
- 5) メディカル朝日 1999, 28, 30
- 6) 外科治療 1998, 79, 165
- 7) Ann Surg 1995, 225, 525

Cefamezin[®]α
(略号:CEZ)



合成セファロスポリン製剤 薬価基準収載

セファメジン[®]α 注射用キット 筋注用

〈注射用セファゾリンナトリウム水和物〉 指定医薬品・要指示医薬品^{注)}

注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等
につきましては、製品添付文書をご参照下さい。

製造発売元 **フジサワ**

大阪府中央区道修町3-4-7 〒541-8514
資料請求先：藤沢薬品工業(株) 医薬事業部
作成年月2000年8月